

# 1. 調査報告概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	1174200723
法人名	社会福祉法人神流福祉会
事業所名	グループホームわたど
所在地	367-0301 埼玉県児玉郡神川町渡瀬1024-3 (電話) 0274-20-3355

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65
訪問調査日	平成19年10月4日

## 【情報提供票より】(平成19年9月15日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成16年10月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	11 人	常勤	10 人, 非常勤 1人, 常勤換算 6.25人

### (2) 建物概要

建物構造	木造造り 1階建ての1階部分
------	-------------------

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,900 円	その他の経費(月額)	約25,500円 + 実費	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり	1,500 円		

### (4) 利用者の概要(9月15日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	8 名	要介護2	5 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	78 歳	最高	98 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	藤岡市国民健康保険 鬼石病院
---------	----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの前には、大きな川と公園がある。川の向こうは群馬県との県境で、ホームの周囲は緑の山々に囲まれている。建物は平屋建てで、中は、2つのユニットを自由に行き来できるようになっており、両ユニット合同で実施する日課には自由に参加できるため、ホームの生活における楽しみの一つとなっている。毎日の食事、おやつは職員による手作りで、栄養面に配慮され、おいしく食べられるように味付、盛付が工夫されている。また、居室には和室、洋室があり、本人の好みに合わせて選ぶことができる。さらに各居室は日当たりも良く、前には畑が一面に広がり、住み心地が良い。

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価では外部評価の目的、意義について、職員間で十分理解されていなかったため、改善課題について職員と話し合いが十分されていなかった。最近研修に積極的に参加し、改善に向けての取り組みを始めているところである。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価の全項目についての話し合いはできていないが、毎日の引継ぎの中で、相互に気付いたことについて意見を出し合い、相談しながら、日々のケアの具体化に向けて検討を行っている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>6ヶ月に1回、地域包括支援センター職員、民生委員、地域役員、家族をメンバーにした運営推進会議を開催している。実施回数が少ないため、現時点では十分な話し合いに至っていない。メンバーからの意見も少なく、会議の進展は見られない。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の面会時にホームへの意見や苦情を聞き取っている。また、面会が少ない家族には、施設から電話を入れて利用者の生活の様子を伝えるとともに、意見等がないかどうかを伺っている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の神社の祭りに参加している。また、学校を訪問したり、小・中学校の課外授業で生徒達がホームに来訪している。施設の夏祭りには地域の人達が大勢参加し、盛大に行われ、地域との連携が保たれている。</p>

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の特性を活かし、実現できる事業所独自の理念を掲げ、理念の実現に向け、職員が協力し合い、努力している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	会議や朝礼時には、必ず理念を読み上げ、理解し、共有し、実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のお祭りに参加して、地域の人達との交流を図っている。近隣の学校の生徒達がホームに来たり、利用者が学校に招待されるなど、利用者と生徒達がお互いに行き来する関係が築けている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員はケース検討会、申し送りなどにおいて、気付いたことなどを話し合い、前回評価における課題について改善への努力が見られるが、管理者は前回の評価における課題を把握できていない。		サービス評価の意義や課題、前回評価の課題項目について全職員が共有し、サービスの質の向上に生かしていくこと期待する。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	6ヶ月に1回、地域包括支援センター職員、民生委員、地域役員、家族のメンバーで開催されているが、現時点では十分な話し合いが行われるまでには至っていない。		会議は、2ヶ月に1回の開催が望まれる。2ヶ月に1回の開催により、さらに委員との連携を図り、会議の内容を充実するための努力が期待される。

埼玉県 グループホームわたど

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月1回市町村が開催しているケアマネ連絡会議には出席しているが、事業所の運営状況などについて、市担当者と連携するような関係は築けていない、ケアマネ業務とケアマネの質の向上に向けて取り組んでいる。		市担当者へ、事業所から積極的な情報の提供と共有の機会をつくり、協力関係を築いていくことを期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	職員は面会時に家族と話し、利用者の日常の様子を伝えている。なお、なかなか面会に来れない家族もあるので、毎月「たより」を郵送し、ホームでの様子を知らせている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等からの意見等については、面会時や電話などで相談を受けている。出された意見は法人が行う月1回主任会議の席で報告、検討し、その結果を運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動または退職時には、利用者に挨拶をし、異動の理由を話して理解を得ている。なお、新しい入職者と利用者とは早く馴染めるよう紹介も行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員を育成するための事業計画がなく、研修の機会も少ない。施設内での勉強の時間もなかなか持てないのが現状である。		職員育成の研修計画を立て、職員の研修の機会をつくり、研修結果は会議での報告や回覧により情報を共有されたい。職員に伝達研修を実施し、業務改善と職員の質の向上に向けての検討が始まっているため、今後のさらなる取り組みに期待する。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	以前は、県北部地区において、月1回同業者同士の会議があったが、現在は行われていない。		他グループホーム事業所と学習会を開くなど、積極的に交流をもつことを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人及び家族との面接時に、生活歴、趣味などを伺い、本人の状態を見ながら、生活の中に慣れ親しむことができるよう、配慮している。またホームでの生活について不明な点があれば、家族と相談するなどし、安心感を持って生活してもらうことを職員一人ひとりが常に心掛け、支援している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>洗濯物たみ、縫い物など、本人のできることは、職員が協力しながら利用者自身で行っており、職員と利用者が支えあう関係を築いている。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居時に、本人や家族に希望、意向を聞き、入居されてからも、本人の状態、状況を確認しながら本人が希望するサービスについて検討している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者の状態変化や問題点がある時は、そのつどケース会議を開き、意見を反映した介護計画を作成しているが、計画作成におけるアセスメントが不十分である。</p>		<p>アセスメントの様式などを工夫し、必要な情報を収集して利用者の状態を十分に踏まえた、介護計画を作成することが望まれる。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的な見直しは、カンファレンスにて行われているが、見直した結果の記録がない状態である。</p>		<p>介護計画についての見直しの記録をきちんと残し、現状に則した新たな計画作成に生かしてほしい。</p>

埼玉県 グループホームわたど

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の心身の状態に応じて、通院介助をしたり、早期退院に向けて医療関係者と相談の機会をもっている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回主治医が往診し、本人、家族の希望や、質問などについて答えている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	面会時に終末期の方向性について希望を聞いており、状態に応じて主治医と連携を取り、家族と話し合いの機会を設けている。職員間でも重度化や終末期に向けた方針について共有している。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は日々の業務の中で、利用者一人ひとりの個人の状態を把握し、個人の尊厳を尊重した支援を行っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでの日々の暮らしの中で、職員は常に利用者を目を向け、その人の状態を見ながら言葉かけを行い、利用者一人ひとりが安心した生活が送れるよう支援している。		

埼玉県 グループホームわたど

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が献立をたて、食材を調達し、調理している。利用者ができること(準備、片付け)などは職員と一緒にやっている。おやつは職員と利用者が楽しみながら一緒に作っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、入る順番に気をつかうなど、トラブルのないように配慮しながら利用者一人ひとりが希望する時間に入浴できるよう、支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの得意なこと、できることを生かし、洗濯物たたみ、掃除、片付けなどの役割を決め、日常生活の中で目的を持てるように支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの外に野菜や花を植えており、職員と利用者が一緒になって手入れをしている。近くの公園には、雨の日以外は毎日散歩に出掛けて、気分転換できるように支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にはベルが付いており、ドアが開くと分かるようになっている。また、外出時には職員が同行して、見守りの支援を行っている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練を行っており、緊急連絡網には地域の人達が入っており、協力体制ができている。		

埼玉県 グループホームわたど

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	地域でとれる新鮮な野菜、米などを食材にし、栄養のバランスを考えて、調理し、食事や水分摂取量を把握されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内の空間に自然光を取り入れ、リビングには利用者が座りやすい椅子などを置き、くつろげるような雰囲気作りを工夫している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、和室と洋室があり、好みの居室を選ぶことができる。居室の中には、今まで使っていた家具や椅子など使い慣れたものが置いてあり、居室の窓からは樹木や山々が見えるなど、落ち着けるような雰囲気づくりを工夫している。		